

フンエン便り

6月号

平成27年6月1日

ARCベトナム校発行

社会文化適応研修(浴衣体験)

ベトナムにはアオザイがあり、日本では着物という民族衣装があります。着物は種類が二つあります。冬に着る着物と、夏に着る着物があります。夏は、浴衣という名前の服を着ます。

先週の火曜日、社会文化の授業は浴衣について勉強しました。いつ着るか、どうやって着るかを教えてもらいました。戸田先生のおかげで私たちは浴衣のことが詳しくわかって、自分で浴衣を着てみました。見るだけでは簡単だと思いましたが、着てみるととても難しかったです。難しかったけれど、皆があきらめないで着るから我慢強いと思います。だから、浴衣は日本人の性格をととてもよく現しています。

初めてアオザイを着た時はとてもうれしかったです。その時と今の気持ちは同じです。授業が終わって私たちは日本の文化の知識をたくさん勉強しました。もう一回着たいと思っています。(フン、ライン、ヒエウ)



候補者の作文紹介

印象に残った作文を紹介いたします。

「小さい間違いで大変な結末」

12組 チン・ティ・ヒエン
今まで忘れられない話があります。

子どもの時、私は家の至る所に物を置きました。使いたい時、見つけれなかったです。ときどき床にコップを置いて、母は見えなくて足でけりました。その時、母にしかられて、私は泣いてご飯を食べませんでした。使いたい時、見つけれなかったのはとても困ったのに、私は直しませんでした。たぶん、くせになりました。

ある日の夕方、私はシャワーを浴びるために服を持って井戸に行きました。でも、ちょうど友達呼び声を聞いたので、私は服と靴を井戸の近くに置いて、はだして遊びに行きました。母は私の服と靴を見た時、私が井戸の中に落ちたと思いました。母は驚きあわてて、大きい声で父を呼びました。父は家から飛び出して、思い切って井戸に飛び込んで私を探しました。私が帰った時、近所の人が集まって父が井戸から戻ってきました。その時、みんな私を見ました。でも私は何だか分かりませんでした。後で母から聞いて私は父に怒られることが怖かったのに、父は一言も言いませんでした。父の足のけがを見て、私はとても心配でした。その時、私は「もし服と靴を井戸の所に置かなかったら、父が井戸に飛び込んで、足をけがしませんでした。そして、母がしかったことは正しい。」と思いました。間違ったことに気が付くことができました。私はあやまって父は全然しかりませんでした。そして、父は笑いませんでした。その時、親ほど私をかわいがってくれる人はいないと気が付きました。子供のために何でもでき

ます。

それから、私はだんだん分かって自分の物をちゃんと整理するようになりました。いつも使いたい物をすぐ見つけれられて使えます。

みなさん、自分の物をちゃんと整理するのはいい習慣なので、頑張ってくださいね。

「私の家族」

5くみ ホー・ティ・ホア
私の家族は4人です。りょう親と兄がいます。私の家族はフンエンに住んでいます。

今年、父は51さい、母は47さい、兄は25さいになります。

父はのうぎょうをしています。毎朝、六時におきてたいそうをします。ですから、いつもとても元気です。

母は服を作る会社で働いています。母のしゅみは花を育てることです。毎朝、にわの花に水をやりま

す。それから、母は料理が上手です。兄はエンジンアです。会社で働いています。今、ハノイに住んでいます。兄はサッカーが好きです。毎週、毎日、サッカーのニュースを見ます。そして、毎週まつ、友だちとサッカーをします。

毎週まつ、私の家族はいっしょに料理を作ります。そして、いっしょに食します。それから、映画を見ます。今、私はけんしゅうじよで日本語を勉強しています。毎日、いそがしいですが、先生と友だちは親切で、おもしろいからです、私はとてもたのしいです。でも、けんしゅうじよで日本語をべんきょうしていますから、うちへ帰ることができません。さびしいです。さびしいとき、家族に電話をかけます。

